

## 『2020年コロナ禍の中での活動』

### 謡曲部

今年はコロナ禍のために、公共施設での活動はすべて自粛し、オンラインで会員相互のコミュニケーションと能楽の研鑽を行いました。



### 写真部

現在、会員18名で月例会、季節ごとの撮影会を通して年間活動をしておりますが、今年はコロナ禍のために活動が制限されています。このような状況下でも、R2写真展を10月23日～29日まで生涯学習センターで開催しました。



### 盆栽部

日本盆栽流山支部は17名による「晩秋の盆栽・水石展」を11月1日～3日まで、初石公民館で開催しました。盆栽は種から苗木まで、苗木からその木の持つ固有の美を引き出すために、何十年も費やして、慈しみながら独創的な姿に育てます。



## 俳句部

流山俳句協会は「第18回流山少年少女俳句大会表彰式」を11月3日、生涯学習センターで開催しました。小中学校25校、参加者5,757名、投句数12,847句の応募がありました。この様にして、一茶双樹につながる流山俳句の伝統は、これら少年少女達に引き継がれていきます。



## 邦楽三曲部

令和2年度の小学校邦楽鑑賞教室は10月21日~12月18日まで、計17日間、市内16校、生徒数1,989名に対して、演奏者は各校4~5名で、邦楽鑑賞教室を開催しました。子供達が箏、尺八、三味線ののびやかで優雅な音色に耳を傾け、これらの楽器に触れる貴重な体験教室です。



令和2年11月21日、子供のための邦楽コンサートを一茶双樹記念館で開催しました。演目は「クルミの森で」。小鳥がさえずり、リスがクルミをかじる微かなざわつきを残す森を箏と尺八の音色で演出しています。



## 書道部

第32回書人協会展が生涯学習センターで11月7日～10日まで開催されました。70点の作品では、漢字固有の多様な形状から引き出された力強い筆捌き、ひらがな特有の優雅な曲線美がそれぞれの個性で表現されています。



## 華道部

四季の花々展として、「秋日和」をテーマに市民ギャラリーで11月9日～13日まで展示されました。ホールに一服の清涼感が醸し出されます。



## 茶道部

12月13日（日）、一茶双樹記念館で茶道講座を開きました。静寂のなかに、過ぎ去った文人達の歴史を語るかのように深い緑の松と鮮やかな紅葉で彩られているこの庭園は、日本古来の文化を演出するにふさわしい場所となっています。それを背景にして、ほど良い温かさの抹茶と季節感のある和菓子で安らぎと清々しさをいただきます。



## 伝統芸能部

7月10日 金刀比羅神社

おおたかの森お囃子会は「新型コロナウイルス終息」祈願を兼ねて第30回奉納演奏会を開催しました。

11月14日 生涯学習センター

第1回「流山寄席」に7名のメンバーが出演しました。140名の来場者から「楽しかった、気が晴れた、元気になった」との感想が寄せられ、第2回「流山寄席」が予定されています。

11月21日 初石公民館

三味線、小太鼓、笛を交えたお囃子や踊りが約2時間半賑やかに演じられ、おおたかの森お囃子会の女性有志による「おとひめ連」のお披露目もあり、どこか郷愁を憶える公演でした。



## 洋舞部

8月16日 松戸森のホール

「La Esmeralda」全幕。会館スタッフ、舞台スタッフ、ビデオスタッフ、ゲスト、出演者、お客様等、関係者全員が「絶対に開催して、奇跡を起こす」という一心でリハーサルに励み、誰一人欠ける事なく、元気に本番を迎えて無事、終演することができました。



11月1日 第35回国民文化祭・みやざき2020

宮崎市民文化ホール

みやざき洋舞フェスティバル2020に出演。全国公募で選ばれた東京、愛知、広島、佐賀のダンサーの皆さんと第2部「ひむかに集う華」で上野真由美、上野美桜、栗原佐知、市川忍、柴田良子、鈴木萌華、鈴木桃音、飯塚文乃、柴田宗近の9名は「THIS IS ME」をめいいっぱい弾けて、世界一幸せなダンサーとして踊ってきました。

